



ショートコメント

★★★

Data 2025-100

ホーリー・カウ (Holy Cow)

2024年/フランス映画
配給: al fazbet/92分

2025 (令和7) 年 10月 21日 鑑賞

テアトル梅田

監督: ルイーズ・クルヴォワ
ジエ
脚本: ルイーズ・クルヴォワ
ジエ、テオ・アバディ
出演: クレマン・ファヴォー
/ルナ・ガレ/マティ
ス・ベルナル/ディ
ミトリ・ポードリ/マ
イウェン・バルテレミ

みどころ

『ホーリー・カウ (Holy Cow)』って一体ナニ?それは、「マジかよ!」「なんてこった!」など感嘆を表す英語だが、なぜそんな英語がタイトルに?舞台はフランスのコンテチーズの故郷ジュラ地方。主人公は毎日を気ままに過ごすクズな若者トトンヌだ。

彼は一攫千金を夢見てコンテチーズ作りのコンテストへの出場を決意したが、その手順は?目標の達成は?

ややもすれば陳腐なサクセスストーリーになりがちだが、本作がフランスで「約100万人を動員!」、「オスカー受賞作を上回るサプライズヒット!」になったのは一体なぜ?フランスのクズな若者のスリリングな生きざまをしっかりと楽しみたい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆本作はフランス映画だが、原題の『Holy Cow』とは一体ナニ?もちろん、これは英語で、「マジかよ!」「なんてこった!」など感嘆を表す言葉らしい。知らなかったナ・・・。
しかし、そんな新語(造語)を使いこなすのは若い奴に決まっている。そんな予想どおり、本作の主人公はフランスのコンテチーズの故郷ジュラ地方に暮らす18歳の若者トトンヌ(クレマン・ファヴォー)だ。トトンヌは、飲酒にケンカ、毎日を気ままに過ごす「グズ」な若者だが、父親が事故で急死し、7歳の妹と生きていかなければならなくなると・・・?

◆チラシによると、本作のテーマは、「フランス、コンテチーズの村—無軌道に過ごす18歳のトトンヌが突如背負うことになった『人生』」。そして、本作のストーリーは次のとおりだ。

フランス、コンテチーズの故郷ジュラ地方。18歳のトトヌは、仲間と酒を飲み、パーティに明け暮れ気ままに過ごしている。しかし現実は無情に彼に襲いかかる。ある日チーズ職人だった父親が不慮の事故で亡くなり、7歳の妹の面倒を見ながら、生計を立てる方法を見つけなければならない事態に……。そんな時、チーズのコンテストで金メダルを獲得すれば3万ユーロの賞金が出ることを知り、伝統的な製法で最高のコンテチーズを作ることを決意する。押し寄せる現実の荒波と不確かな未来、打算とロマンス。不器用な手つきで人生を切り開こうとする彼らの日々を鮮やかに描いた青春譚。

◆チラシによると、注目の女性監督による本作は、「2024年のカンヌ国際映画祭を皮切りに、夭折の天才ジャン・ヴィゴにちなみ若手監督に授与されるジャン・ヴィゴ賞、フランスのアカデミー賞と言われるセザール賞など数々の映画祭を席卷。小規模な作品ながらフランスで約100万人を動員し、オスカー受賞作を上回るサプライズヒットとなった。」とのことだ。またチラシには、「フランスで約100万人動員!」、「『コンテチーズの村』で生きる若者たちの日々、鮮やかに心打つ青春譚」、「オスカー受賞作を上回るサプライズヒットを巻き起こした注目作!」の宣伝文句が躍っている。このように、本作はタイトルを含め何から何まで知らないものばかりだが、さてその出来は？

◆日本では、牛乳はもとよりバターもチーズも戦後数年を経てやっと生活に根付いてきた食品だから、チーズ作りの原理を知っている人はまずいない。しかし、フランスは昔から農業国だから、ワイン作りのほか、チーズ作りもお手のものらしい。とりわけジュラ地方はそうだから、そこではコンテチーズ作りのコンテストで優勝すれば高額の賞金が獲得できるらしい。そんな情報を聞き込んだトトヌは、一攫千金を夢見て悪友を誘い、コンテチーズ作りのコンテストでの優勝を目指したが、そんなサクセスストーリーの実現性は？

◆それがすんなりできるなら、すべての勝負事は簡単だ。いくら頑張っても優勝には到底手が届かないのが現実というものだ。まして、コンテチーズ作りのイロハから学んでいるトトヌにそんな夢が実現できるはずはない。すると、トトヌの行く末は？

そんなハラハラドキドキの展開は、グズな若者が織りなす人生模様として確かに面白い。フランス風のグズな若者の生き方の1つのパターンを描く本作は、佳作として星3つ。

2025（令和7）年10月23日記